

平成21年度 第2回千葉県博物館協議会議事録

日 時 平成21年12月17日(木) 13:30~16:00

場 所 千葉県立美術館研修室

出席者

(委員)

大澤委員《議長》 鵜澤委員 小野委員 片山委員 栗原委員
西村委員 水島委員 茂木委員 吉野委員

(博物館・文化財課)

大熊美術館長 佐久間中央博物館長 府川現代産業科学館長
郷田関宿城博物館長 村山房総のむら館長

日 程

開 会

博物館あいさつ

議 事

- (1) 各博物館の地域振興への取組みについて
- (2) 地域振興に関わる広報活動について
- (3) その他

その他

閉 会

<博物館あいさつ>

県立美術館・博物館は、各方面から更なる活性化が求められている。地域の社会教育施設として、知の拠点として生涯学習の活性化に重要な役割が求められ、学校連携については、新学習指導要領に対応して博物館と学校間の緊密な連携の更なる充実が求められている。平成20年3月の答申に基づき各館が特性を生かし様々な工夫を行い地域との連携を行い更なる活性化を図っているところである。

県立美術館・博物館は魅力ある企画展の開催、子供から高齢者まで多くの県民の参加体験型展示の充実を図り、親しみのある博物館を目指している。本年度の地域振興について各館からの報告について意見をいただき県民文化の更なる向上を目指したい。

<議 事>

(1) 各博物館の地域振興への取組みについて

合同企画事業(学校連携)の進捗状況等について、学芸・普及部会より報告
各館の地域振興への取組みについて各館担当者から報告

[質疑・意見]

委員：

中央博物館（学校連携）3⑥「研究員紹介」の数字は？

中央博物館：

体験交流員が総合案内において、来館者の質問に対し、研究員に取り次いだ件数である。

委員：

中央博物館（学校連携）4アウトリーチ「野草カード」について小中学校理科部会への説明はあったか。その後申し出はあったか。

中央博物館：

紹介した。「野草カード」はパソコンからダウンロードできる。

委員：

中央博物館「山のフィールドミュージアム」について、12月1日から「清和県民の森」の指定管理者が森林組合となり、協同の展開はあるか。

中央博物館：

以前から指定管理者であり、今まで同様月1回の観察会を実施している。

委員：

「森林館」は未使用だったがどうなっているか。

中央博物館：

「森林館」は老朽化しており、フィールドミュージアムのスタート時点で使用について検討したが、再利用には経費がかかりむずかしく、現在は閉鎖されたままになっている。

委員：

美術館「移動美術館」は作品に対する影響はないのか。

美術館：

2週間という短期間であり、影響は少ない。

委員：

大変良い企画であり、是非続けてほしい。

(2) 地域振興に関わる広報活動について

地域振興に関わる広報活動について、学芸・普及部会より報告
各館の広報活動への取組みについて各館担当者から報告

委員：

美術館・中央博物館・現代産業科学館のような都市部では、地域振興というより社会的課題はある。田舎では最終的には観光サービスガイド等、地域

振興ネットワークに入ることであり、中央博物館の「おばあちゃんの畑プロジェクト」のように目玉的な事業を進めるのがよい。

委員：

広報活動は各館とも地道な活動をしている。マスメディアをうまく使うと効果的である。中央博物館は、先日のNHKの放映によりステータスが上がった。①日頃マスコミに対するサービスを心がける。②ホームページの充実。③チラシの配布。

委員：

単独では足が向かない場所も、近隣複数の情報があれば行ってみようという気になる、単独ではなく、周辺とリンクして広報するとよいのではないか。

委員：

職員は手一杯なので、地域振興をやりたいという地元の団体、NPOにまわすなどの方法がある。

委員：

ホームページを見やすくするなどの充実を図り、活用すべきである。「房総のむら」等は英文表記が重要である。

遠方からの来館者はホームページを見ての来館ではないか。

房総のむら：

ホームページは簡単ではあるが英文表記がある。パンフレットは英語、中国語、韓国語を用意している。

委員：

関宿の駅を利用したのポスターは有効である。無料であるなら是非行ってほしい。

関宿城博物館：

鉄道会社も観光的なものに力を入れようとしている。路線図を入れることで駅に掲示し、バスの中にチラシを置いてもらえる。

委員：

電車は、東京都内にも入るので非常に有効である。

委員：

「むら」のチラシは関心が持たせるような内容になっている。集客効果がある。

委員：

和服無料、プレゼントなどは興味を持たせる。団体割引等も効果的に表記するとよいのではないか。

文化財課：

芸術文化振興プランについて説明。県としては、事業数が多く、事業全体がわかる事業名を掲載したチラシのみを作成した。

議長：

インターネットについて各館で連携はしているか。

文化財課：

各館から担当が出席情報システム委員会で検討している。

委員：

インターネットに詳しい人がやっているのか。

文化財課：

コンピュータ専門職員ではなく、学芸員がやっている。

委員：

一度入館された方に次回のイベントのチラシを渡すと、リピーターを獲得することができ、無駄なく配布することができる。

委員：

JR等は、何をどこでいつやっているかをわかり易く掲示することを心がけてほしい。

文化財課：

芸術文化振興プランはJRに無料で掲載させてもらっている。JRではスポンサーが載っていると有料であり、スポンサーの使い方もむずかしい。

委員：

「房総のむら」は学校来館が多いが、どのような誘致方法を取っているのか。

房総のむら：

下見の時の対応を丁寧に行ったことへの積み重ねと、遠足時期の前に学校へチラシを配布している。

委員：

博物館を活用してもらうためには、よい手法を他館へ広げてほしい。

委員：

「房総のむら」は旅行業者も進めている。子どものニーズに合わせてくれている。他の館もニーズに合わせた体験を実施してほしい。旅行業者への広報も重要である。

(3) その他

中央博物館：

県博物館協会の地域振興への取組みについて説明

県博物館協会で地域振興委員会を設置し、21年度文科省図書館・博物館における地域の知の拠点推進事業に係る博物館ネットワーク構築推進事業として「千葉県文化財救済ネットワーク構築推進事業」を実施している。また、来年度に向けて「国際博物館の日」に関連する事業を実施することとし、実施内容について検討している。

議長：

天然記念物保護管理については、中央博物館の研究者に手伝ってもらっているが、その辺はオープンな形となっているのか。その場合、携わる人員はどうなっているか。

中央博物館：

県博物館協会では、会長は2年毎に県立、私立、市町村立の順で回る。中央博物館は今年度で会長の任期が終わるが、引き続き中央博物館で事務局をやろうと思っている。2月にシンポジウムを実施する予定である。

委員：

県博物館協会の加盟館数は？

中央博物館：

80程度である。加盟館リストは後ほど郵送させていただく。九十九里いわし博物館の爆発の時にも周りの館が協力していたが、事前に体制を整えようとしている。